



笹原中学校 学校通信

伊丹市立笹原中学校 学校通信
第 1 〇号 令和元年 9月 6日
編集責任者 校長 菰口 太志

「全国学力・学習状況調査」等の結果 ～結果にもとづく「改善」が重要!～

3年生を対象に、4月18日(木)に実施されました「全国学力・学習状況調査」のうち、「学力調査」(国語・数学・英語の3教科)の結果概要をお知らせします。

3年生には、各学級で個票を配布しています。設問ごとの正解・不正解、問題の内容等が詳しく記載されていますので、点数のみに振り回されることなく、どこでどうつまづいたかなどをしっかりと振り返り、見直してください。

また、本校の教員で夏季休業中に結果を分析し、各教科での課題とその改善策について話し合いました。これからの授業改善に活かし、生徒の学力向上に努めます。

各ご家庭でも、家庭学習について子どもたちへの働きかけをお願いいたします。学校と家庭の共通理解のもと、協力して笹原中学校の生徒の学力向上に取り組みましょう。

全国学力調査(国語・数学・英語)とはどんな調査でしょうか?

- ①身につけておかなければ、後の学年等の学習内容に影響をおよぼ内容や、実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など
- ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力などに関わる内容

上記、①・②を一体的に問う調査となっており、国語、数学は、昨年度まで、A問題とB問題の2種類の調査があり、①がA問題、②がB問題にあたります。

※ただし、この調査で測れる学力は特定の一部であって、学力の全てを表すものではありません。

今年度の全国学力調査(国語・数学・英語)の平均正答率

	国語	数学	英語 I	英語 II	
笹原中学校	72	62	55	27	英語 I は、 話すこと以外
兵庫県	73	62	58		英語 II は、 話すこと
全国	72.8	59.8	56	33.4	(参考値)

◎国語、英語(話すこと以外)は、ほぼ全国平均と同じ程度です。数学は、全国平均を上回り、兵庫県平均と同じ程度です。英語(話すこと)が、全国平均をやや下回りましたが、昨年度からの「落ち着いた授業態度」「規律ある生活態度」「笹トレ」「授業の振り返りシート」などの取組の成果が出ていると思います。(★話すことについては、あくまで参考値です。)

(※ウラ面に【平成31年度 学力向上の具体策】を載せています。)

今年度の全国学力調査(国語・数学・英語)の結果分析概要

【国語】



全体的に無解答率は低く、記述の問題に対しても意欲的に取り組み、具体的に記述できています。記述式問題の正答率が相対的に高く、授業での「書くこと」への意識的な取り組みの成果が出ていると言えます。

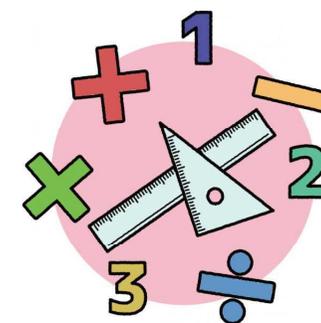
正答率が低かった設問は、「文章の構成や展開、表現の仕方について、根拠を明確にして自分の考えをもつ」(読む能力)63.2%、「文章の展開

に即して情報を整理し、内容を捉える」(読む能力)60.9%、「封筒の書き方を理解して書く」(知識・理解)57.9%などでした。また、無解答率がやや高かった設問は、「伝えたい事柄について、根拠を明確にして書く」(書く能力)7.5%でした。普段、文章や資料を読むときに、目的に応じて必要な語や文を見つけ出したり、文章や段落どうしの関係を考えたりしながら読むことが必要です。

また、自分の考えを話したり書いたりする時に、相手にうまく伝わるように、根拠を示したりするなど、文章の組立ての工夫が必要です。授業や家庭学習において、毎時間の振り返りをする時も、自分の考えをまとめ、論理的に書くことを意識してみましょう。

【数学】

三角形の合同条件など、知識・理解の問題には得意意識をもっています。しかし、記述式問題では、4問中3問が正答率50%を下回っており、思考力・判断力・表現力には課題があります。考察したことを、言葉で一般化して説明したり、言葉から図形をイメージしたりする力が弱いと言えます。



正答率が低かった設問は、「グラフ上の点Pのy座標と点Qのy座標の差を、事象に即して解釈することができる」33.8%、「事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる」36.1%などでした。また、無解答率が高かった設問は、「連続する5つの奇数の和が中央の奇数の5倍になることの説明を完成させる」17.3%、「四角形ABCDがどのような四角形であれば、AF=CEになるかを説明する」15.0%、「資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる」15.0%などでした。

自分のもっている知識と知識をつないで、問われていることについて言葉で説明できないことなど、情報活用能力が不十分と思われます。国語と同様に、授業や家庭学習において、毎時間の振り返りをする時、論理的に文章を書くことが必要です。また、授業においても、実生活とのつながりを意識した授業の進め方を実践します。

【英語】



Reading, Writing, Listening の3観点とも、簡単な問題には対応できています。しかし、問われている内容が読み取れず、解答の内容が問われていることからズレていたり、自分の気持ちや意見を英語で書くことに対して苦手意識があります。

正答率が低く、無解答率も高かった設問は、「音声メッセージを聞いて、内容を理解し、自分なりのアドバイスを書く」3.8%（無解答34.6%）、「書かれた内容を的確にとらえ、その内容について自分の考えを書く」9.0%（無解答22.6%）、「与えられた会話や情報にもとづいて、適語に変えたり、英文で説明したりする」18.0%（無解答12.8%）、「与えられたテーマについて考えを整理し、文と文のつながりに注意してまとまりのある英文を書く（完答問題）」0.0%（無解答2.3%）、「交通手段に関する基本的な表現の応答（話すこと）」9.1%（無解答12.8%）、「聞いた内容について、即興で、やりとりすることができる（話すこと）」5.3%（無解答15.2%）などでした。

4技能が統合された問題、ならびに、書く問題での正答率が低いので、授業や家庭学習において、文と文のつながりがある、まとまった英文を書く練習が必要です。また、即興での応答が苦手ですので、今後の授業においては、それらを意識した進め方を実践します。



このような結果を受けて、以下のような改善に全教科で取り組みます！

【平成31年度 学力向上の具体策】

- ① 学力調査の分析に基づく学習指導の充実、社会とのつながりや必要感のある授業のねらいを明確にし、振り返りを行う学習活動の徹底（キャリア教育における4つの基礎的・汎用的能力を意識化）
- ② チーム学習や教え合い学習など指導形態の工夫・充実（意図的なペア・グループ編成と目的意識の明確な話し合いの手法の統一）、笹トレの手法を各教科でフル活用
- ③ ノート指導の充実と徹底
- ④ 課題設定・発問・板書の工夫（考えたくなる課題・発問の設定）
- ⑤ ICTの活用推進と設備の充実（iPadのフル活用）
- ⑥ 授業のユニバーサルデザイン化の一層の推進（視覚・聴覚・体感）
- ⑦ 学習規律の徹底（チャイム席・私語ゼロ・忘れ物ゼロ・正しい姿勢の継続）
- ⑧ 1年生数学での習熟度別学習の実施
- ⑨ 2・3年生数学、1年生英語での同室内複数指導の実施
- ⑩ 数学の全学年教え合い学習「笹トレ」（水曜7校時）による学力定着
- ⑪ 放課後学習（水曜）全学年数学・英語などの実施による学力補充
- ⑫ 土曜学習の充実（9月から月2回程度全14回実施）
- ⑬ 「サクセスシート」（授業の振り返りシート）の充実・習慣化の継続と主体的家庭学習への連動
- ⑭ 英検・漢検・数検等の検定取得の推奨
- ⑮ 学校図書館の活用と読書量の増加
- ⑯ 笹手帳や笹中校区3校合同生活点検週間の活用による生活習慣（朝食・学習等）の改善
- ⑰ コミュニティ・スクールとして、地域、家庭との連携強化